

第2回社会教育委員会議 会議録

1. 開催日時 令和7年12月12日(金) 15:00～
2. 開催場所 嘉麻市碓井支所 碓井文化ホール
3. 公開又は非公開 公開
4. 非公開の理由(会議を非公開とした場合のみ)

5. 出席者

(1) 委員

議長：平尾 みずえ、副議長：早友 忠敏

松岡 敏子、靱井 由里子

欠席：松岡 憲一、齊藤 瑞穂、大里 みずき

(2) 執行機関

嘉麻市教育委員会 生涯学習課

課長 末永 康洋 課長補佐 矢野 義博

社会教育係長 平塚 賀一

社会教育係 岡野 陽介

人権・同和教育係長 中野 聡子

6. 傍聴人数(会議を公開した場合のみ) 0人

7. 議題及び審議の内容

【次第】

1. 開会のことば

2. 教育委員会あいさつ

3. 議題

(1) 令和7年度教育委員会生涯学習課事業計画表(中間報告)について

(2) 今後の予定

(3) その他

4. 閉会のことば

8. 議事録

(1) 令和7年度教育委員会生涯学習課事業計画表(中間報告)について

(事務局より説明)

○ 議長

事務局の説明について、何かご意見等ありましたらお願いいたします。

○ 松岡委員

家庭教育支援講座の開催が第6次嘉麻市教育アクションプランでは23回予定としているが、前年度は22回目標で、その実績から1回増やしている。昨年と比較し、増えた目標に対して1月、2月、3月で今年度目標を達成できるのか。現状あまりに数が低いように感じるが、目標数値は達成できるのか。

(事務局)

今年度の目標達成に向けて、係内で適宜協議を行っているが、目標の達成は難しいと考えている。現状、家庭教育支援講座の柱として屋外体験活動を実施し、子どもの体験の場を提供しているが、平日の事業実施ができていないことから目標達成が難しい状況であり、こちらとしても今後の取り組みをどのようにするか検討している。夏休み、冬休み、春休みなど長期の休校期間中に何かできないか検討している。

○ 松岡委員

屋外体験活動の実施は、夏場や冬場に実施するのは気候条件も悪いことから参加を躊躇するのではないか。事前にそのようなことを考慮して計画されていたのか。

(事務局)

真夏の屋外活動などについてはこちらも考慮しているが、実施の時期については改めて検討し、可能な限り参加しやすい取り組みを検討していきたい。

○ 松岡委員

施設の件についても確認したい。報告によると、上山田住民ホールの解体が行われており、当初の想定から1施設少なくなっている。なぜこのような状況になっているのか。

(事務局)

現在、第6次嘉麻市教育アクションプランの計画遂行中となっているが、この計画は令和5年度に策定し、令和6年度から令和8年度までの3か年を実施期間と定めている。策定当初は上山田住民ホールの用途廃止・解体を想定していなかったことから、1施設少ない状況で事業を進めている。現状、嘉麻市教育アクションプランに対する途中の変更手続きを取ることができないため、設定した数値目標の達成に向けて検討を行っていく。

○ 議長

他に質問がなければ、次の資料1-2の説明をお願いします。

(事務局より説明)

○ 早友委員

家庭教育支援事業について、令和7年度の重点課題と取り組みのターゲットが乖離しているように思える。重点課題が情報リテラシーに沿ったものであれば、もっと小学校や中学校に対して取り組みを強化しなければならないと思う。

また、屋外体験活動の参加者へのアンケート回答についても回答してくれるのは子育てに対する意識が高い家庭だけではないか。家の中で遊んでいる子どもはもっと多いはずで、

現状の目標 16 回に対して実績 5 回というのは非常に残念だと感じる。

(事務局)

目標値に対して、現状の実施回数が達していないのはこちらとしても対策が必要と考えている。アンケートについてもまだまだ参加者数が十分とは言えない状況であると認識しているため、まずは参加者の確保に向けて協議していく。

○ 早友委員

周知の方法については、公式 LINE の活用はターゲットがすべての年齢層になるため、ターゲットが絞りがづらいのではないかと考えている。情報展開の方法として、テトルを検討してはどうか。

アンケートの実施についても設問が平日開催を展開するためのものであるという印象がある。正直なところ、平日開催による参加者の確保は難しいのではないかと考えている。多くの保護者が共働きをしている中、参加者を集めるのはかなり厳しいのではというのが率直な感想である。

大がかりな事業ではなく、小さなイベントを実施しながら参加しやすい形で考えたらいいのではないかと考えている。

(事務局)

子どもの年齢によって啓発の段階・内容が異なるものだと考えている。例えば、乳幼児や 1 歳前後の子どもに対して保護者がスマートフォン等で動画を見せ、育児を肩代わりさせる事例もあることから、育児を始めたばかりの保護者に対してもメディア依存を危惧している。このようなことから、平日開催の目的として育児休業中の保護者に対して、子育てがメディア依存しすぎないようにすることを考えている。

現状、日常生活からメディアを完全に切り離すことは不可能であると考えているため、上手く付き合っていく方法や長時間の使用を抑制する啓発を行っていきたいと考えている。

また、委員から提案があったテトルの活用は検討を行いたい。

○ 早友委員

子育てに対する意識が高い家庭は参加費が有料であってもそういった場所に連れていく。そうではない家庭に対して、天候に左右されないよう屋内でやれる遊び場を検討してはどうか。

例えばだが、第 6 次嘉麻市教育アクションプランに定める家庭教育支援講座の目標数値が 2 3 回となっているが、単純計算で 1 か月に 2 回実施しないといけない。年度当初にどのような計画で割り振っていたのか。子どもたちを外に連れ出す計画を立てているのなら、ただ同じことをやっているだけでは現状の課題とそれに対する解決策が合わないのではないかと考えている。

(事務局)

委員が指摘する通り、目標数値に対する取り組みを改めて検討しなければならないと考える。家庭教育支援事業については、目標数値も想定しているが、啓発すべき内容も非常に重要であることから様々な意見を参考にしながら今後どのように展開していくべきか協議

を重ねていきたい。

○ 議長

他に質問がなければ人権・同和教育係の説明に移ります。説明については資料1-2、資料2-2を一括して説明させます。

(事務局より説明)

○ 議長

委員から何か質問はありますか。

(質疑なし)

○ 議長

それではレジュメの今後の予定について事務局より説明をお願いします。

(事務局より説明)

次回の社会教育委員の会議の開催予定などを連絡

○ 議長

それではレジュメのその他について。事務局又は委員から何かありますか。

(なし)

○ 議長

それではこれもちまして令和7年度第2回社会教育委員の会議を散開します、お疲れ様でした。